

坂井 東洋男 学長

T o y o h S a k a i

[Interview: 杉本 恵美 / 納輪 芽以 / 三上 雄輔 / 上田 美羽]

FACE

Key person
Q&A corner

Profile
追手門学院大学 学長 / 追手門学院 学院長

1943年京都府生まれ。1972年、京都大学大学院文学研究科修士課程修了。京都産業大学外国語学部で助教授、教授、学部長を経て、2002年から3期8年にわたり学長を務める。2012年4月追手門学院専務理事就任。7月1日追手門学院学院長、同28日兼任で学長に就任。
京産大の学長時代には、学生企画のプレゼン大会「チャレンジコンテスト」や、「フットライ賞」(失敗談の奨励)などを学長提案で実施。また毎週HPに掲載する「学長の言葉」が学生らに好評で、学長辞任の際には有志の寄付により「言葉はこころの杖」として一冊の本にまとめられるなど、身近な学長として学生に慕われた。

「トヨオさん」と呼んで」 破天荒な新学長の改革に期待

さる7月、追大到に新しい学長が誕生した。京都産業大学の学長を8年間務めた後、本学院の専務理事に迎えられた坂井東洋男氏だ。新学長がどういう考え方の人物で学生のためをしたいのか、10項目の質問を用意し、ズバリ胸の内を聞いた。新学長は明るくユーモアがあつて取材中あちこち脱線しながら笑いの連続だった。

Q1 学長就任の経緯は

前任校(京都産業大学学長)の時代に講演に招かれたのがきっかけ。僕の話に共感した前理事長からお声掛けがあった。実は昨年に胃を全部摘出する手術をしており、最初はお断りした。しかし何度も熱心にお誘い頂いたのと、大学改革に掛ける強い意欲に感じるところがありお受けした。

Q2 学長が胸に抱く大学改革とはどういうものか

いかに学生を元気づけられるかが一番の力ギ。追大の場合、大阪らしさを強みとした特徴のある大学になれば面白い。大阪らしさといえは吉本新喜劇や上方落語がある。例えば笑いやユーモアに関する、どこにもな

い学部が作れないか。キャッチコピーは「笑いで大阪に元気を」。こういうキャンペーンができたなら楽しいと思わない? 面白いと僕は個人的には考えている。

Q3 今すぐ始める改革について

まず「教育力」の強化。Education(教育)の語源はmōre(才能を引き出す)。知識を伝えるだけでなく、学生の興味・関心や意欲、向上心を引き出す教育であるべき。授業形態や課外活動も変えていく。学生FDも君たち学生企画広報スタッフもすばらしい取組み。目標は「追手門に入った元気になる」、そんな大学だ。

Q4 学力向上についてはどうか

基礎学力、基礎能力として、日本語での言語能力を徹底的に鍛えるべきというのが持論。英語でしゃべる際にも、まず母国語でしっかりと考えて話すことが問われる。

Q5 グローバル化戦略の目玉は

外国人留学生を積極的に増やしていく。そのためにも新キャンパス・新学部構想と併行して、(日本人学生と共同生活する)本格的な国際学生寮の計画を進めたい。

Q6 学院長も兼任しているが、学院全体のビジョンはどうか

追手門は120年余の歴史を誇る名門小学校を擁する。学院全体のイメージアップには小中高大の一貫教育強化が不可欠で、大学の役割は極めて大きい。大学がみんなの憧れる目標になつてこそ一貫教育戦略。大学のブランド価値向上は、学院全体の評



価を高める特効薬になると確信している。

Q7 学長自身はどんな学生時代を過ごしたか

高校卒業後、一度就職。すぐ会社を辞め、一念発起して外国語

大学に入学した。しかし大学にはあまり顔を出さないニートのような生活だったが、友人の一言で大学院に進み、この世界に入った。実は無頼の人生にაცოგれ小説家になりたかった。だから学生時代は大学の教壇に立つなど夢にも思わなかった。紆余曲折。人生の岐路はいたるところにある。風変わりな僕の生き方はその典型的なモデル。学生諸君は何事にせよあきらめず、人の話に耳を傾け、人生を切り開いてほしい。

Q8 決断力を身につけるには

実社会では既成の方法や知識は役立たない。豊富な経験こそ何よりの教科書。若いときの失敗は傷にならないのだから、怖れず飛び込むといい。また偏差値に毒された価値観から一刻も早く脱却を。偏差値は学力を数値化する指標のひとつに過ぎず、人間力は偏差値を逆転させる。僕は「根拠のない自信を持って」「カラ元気も元気のうち」よく学生に話す。こういう考え方になれば就活など全く苦にならないはず。

Q9 追大生に一言!

前任校では学生から「トヨオさん」と親しまれていた。気軽に声をかけてほしい。

Q10 学長と学生が話す定例の場を企画したいが

ランチタイムの食堂活用など、どこでもやればできる。ぜひ積極的に提案を。